

2005年NPT運用検討会議に向けた第一回準備委員会  
議長サマリーの要旨（議長の責任により作成されたものであり、合意文書ではない。）

平成14年4月19日

1. 普遍性

キューバ、印、イスラエル、パキスタンに対して、無条件に非核兵器国としてNPTに加入するよう呼びかける。

2. NPT 第6条、95年「原則と目標」、2000年運用検討会議最終文書の実施にコミットしている。2000年に合意された核軍縮の実際的措置の実施状況に関し、失望の念が表明された。

3. 現存の核軍備、核兵器の将来の役割に関する新しいアプローチ、新世代の核兵器開発の可能性に関し、懸念が表明された。

4. CTBT

CTBT に対する強い支持が表明された。CTBT の早期発効の重要性と緊急性が指摘された。発効要件国で未締約の13か国による批准・署名の重要性。CTBT 発効までの間の核実験停止を再確認。国際監視制度への支持。

5. ABM 条約

米国の ABM 条約離脱決定及びミサイル防衛開発が、宇宙を含め新たな軍備競争に繋がり、戦略的安定・国際の安全保障に悪影響を与える可能性があることについて懸念が表明された。新戦略枠組みを創るための米露二国間交渉が国際安定を促進することへの希望が表明された。

6. 米露核軍縮

戦略兵器削減に関する米露二国間交渉を歓迎し、その結果、不可逆性、検証、透明性を確保する法的拘束力のある文書が、生み出されることへの希望が表明された。

## 7. 非戦略核

非戦略核の一層の削減の重要性が強調された。非戦略核削減に関する91年・92年大統領イニシャティヴの文書化を求める声があった。

## 8. カットオフ条約

軍縮会議がカットオフ条約交渉を行えないでいることは遺憾。軍縮会議が作業計画に合意するよう促す。兵器用核分裂性物質の生産モラトリアムを宣言していない国が、そうするように求める。

## 9. 定期報告

定期報告の範囲と方式についての考えは様々であった。次回準備委員会に向け、報告に関する提案を準備するための非公式協議に関心ある旨表明した。

## 10. 北朝鮮

北朝鮮は、IAEA 保障措置協定を遵守するよう促された。

## 11. イラク

多くの国が、イラクに対する IAEA 査察の停止に関し深刻な懸念を表明し、安保理決議の完全実施を求めた。イラクは、NPT を完全に遵守している旨繰り返した。

## 12. 消極的安全保証

安保理決議984の中での約束が再確認された。多くの国が、安全保証に関する普遍的且つ無条件の法的文書作成を強調した。

## 13. 軍縮・不拡散教育

軍縮・不拡散教育が重視され、政府専門家グループの作業が評価された。

## 14. 保障措置・追加議定書

普遍化の目標が強調された。包括的保障措置協定を未締結の国は、遅滞なくこれを締結するよう求められた。多くの国が、追加議定書未締結国に対し、締結を求めた。

#### 15. 核テロ対策

核テロ防止に関する IAEA の行動計画が広く支持された。締約国は、核物質防護を核物質防護条約の改正により強化することを求めた。

#### 16. 放射性物質の輸送

放射性物質の輸送は、国際的標準に厳格に従いつつ、安全に実施されるべし。2003年の放射性物質輸送に関する会議が多くの国により歓迎された。